

# 薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！  
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2020年  
10月23日  
第105号



## カリン (バラ科)

園内では通用門から入って左側と、温室の裏の2ヶ所に植栽され、今、淡緑色の実を付けています。中国原産で古い時代（いつの時代かは諸説あり不明）に渡来しました。春の淡紅色の花も可愛いので庭木、果木として各地で植栽される落葉樹です。名の由来は、一説によると材の木目（もくめ）が家具や仏壇の材料として使用されるマメ科インドシタン（花欄）に似ているから。これから黄色に熟す果実（偽果）は、かたくて酸味が強く、そのままでは食べられず、ハチミツ漬けジャムや果実酒を作り、咳止めや疲労回復に用います。偽果は生薬の木瓜（モッカ）となり、鎮痙、整腸、利尿に用います。なお、生薬のモッカは、カリンの偽果だけでなくボケの偽果も基原としますので、こちらを光皮木瓜（コウヒモッカ）と呼んで区別します。

## シソ (シソ科)

今、第一圃場で、両面が紫色の葉の間から紅紫色の小花が見られます。中国原産で古くから栽培される一年草で、野生化もしています。シソには多くの品種があり、薬用で使用されるのはアカチリメンジソ。葉が緑色のものはアオジソと呼び、当園では第二圃場で栽培しています。アカチリメンジソの葉および枝先は生薬の蘇葉（ソヨウ）、種子は生薬の紫蘇子（シソシ）となり、どちらも理気薬として漢方医学で使用され、前者は半夏厚朴湯、香蘇散、神秘湯などに、後者は蘇子降気湯などに配合されています。食品としては、アカジソの葉はアントシアニン系色素が含まれ酸性で安定なことから梅干やしば漬などに、アカジソの花穂やアオジソの葉（大葉；おおば）は刺身のつまなどに利用します。

いま、こんな**花木**がたのしめますよ！！